

浄土

monthly
JODO

March 2000

4



テレコムしよう。



コミュニケーションの未来へ
日本テレコム

お申し込み、お問い合わせは
お客様センターへどうぞ **0088-82** (無料)
[受付時間] 9:00~23:00 (年中無休)
(インターネットホームページ) <http://www.japan-telecom.co.jp/service/>

国際電話は**0041**、市外電話は**0088**でテレコムしよう。

寺院紀行

寺に歴史あり。
人々に信仰あり。
日本の
心の故郷を紀行する。

群馬・高崎

安

國



安國寺本堂（下）。安國寺第二十四
世大田秀三住職（写真右）と松岡克
也副住職

寺



安國寺の墓苑、若田山に立つ安國寺別院の常照院

安國寺別院の本堂。採光性に富んだ空間となっている



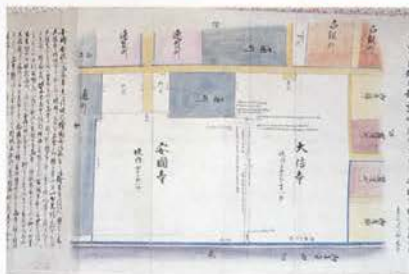
慈光ビルの右手前が安國寺の入口。ビルの一階は商店、二階三階は本堂、保育園、そして住宅など



安國寺本堂の内陣



かつての大手前安國寺通り。正面奥が安國寺

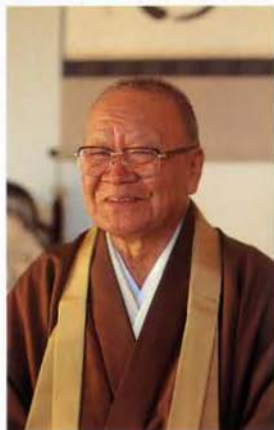


かつての安國寺の地図。山門の正面が高崎城の大手門だった

別院の本尊。後ろのステンドグラスに夕日が沈んでいく



安國寺第二十四世大田秀三住職。
この三月末日より京都の清浄華院
の第八十世のご法主になられた



寺宝の刺繍織りの大涅槃
図。見事な出来映えた



別院に建った利生塔と歴代住職の墓



丁寧な作りの供養塔

高崎城跡。左奥の高層ビルが高崎市役所



浄土

2000/4月号 目次

カラーグラビア寺院紀行「高崎 安國寺」.....	写真＝タカオカ邦彦	1
目次		5
ほとけさまの物差し	ひろさちや	6
懐かしき玩具.....	芝崎慶三	13
寺院紀行 高崎 安國寺	真山剛	14
コラム 春宵雑感		23
連載 法然上人をめぐる人々	石丸晶子	24
列伝 雑誌「浄土」を支えた人々 井川定慶上人	坪井俊映	32
響流十方	袖山榮輝	36
コラム 仏教歳時記.....		41
つば庭日記	近藤垂々砂	42
Jフォーラム.....		47
誌上句会	選者＝増田河郎子	48
マンガで楽しい仏教用語.....	藤井ひろし	51
編集後記		52



表紙題字＝浄土門主 中村康隆猊下
表紙撮影＝芝崎慶三
アートディレクション＝近藤十四郎
協力＝迦陵頻伽舎

ほとけさま
の
物差し

ひろさちや

わが国の仏教の最初の礎^{いすめ}を築いたのは聖徳太子です。聖徳太子なかりせば、日本は仏教国になっていなかったかもしれませぬ。聖徳太子は日本仏教の恩人です。

その聖徳太子の言葉に、

「世間^{せけん}虚^こ仮^け・唯^{ゆい}仏^{ぶつ}是^ぜ真^{しん}」

があります。わたしたちの住んでいるこの世間はうそ・いつわりであり、ただ仏だけが真実だ、という意味です。

じつは、江戸時代の儒者たちは、この言葉をとりあげて聖徳太子を攻撃しました。聖徳太子よ、あなたは政治家だろう。世間を統治する政治家が、その世間を「虚仮」と言ったのでは、政治家として落第ではないか。彼らはそんなふうに非難しています。儒者たちは仏教が嫌いだから、日本を仏教国にした聖徳太子が憎くてたまらないのです。

たしかに、ある意味では、儒者たちの非難は正鵠^{せいこく}を射ています。聖徳太子は推古天皇の摂政であつて、第一級の政治家です。その政治家が世間を虚仮と見たのでは、ちよつと問題があるようです。

しかし、そのことは差し措^おいて、いま仏教の側に立つて考えるなら、わたしはこの聖徳太子の言葉が仏教の真髓をよく表明していると思います。

なぜなら、仏教というのは、本質的に、

出世間の教え――

です。この世間にしがみついていたのでは仏教になりません。この世間を否定し、この世間を飛び出したところに仏教があるのです。少なくとも釈迦世尊はそう教えられました。釈尊は出家というかたちで、世間を飛び出したが故に、「仏教」という超越的な価値観を

確立できたのです。釈迦の教えは、処世術ではありません。仏教をこの世の中の成功・不成功といった次元のものだと思わないでください。

その意味では、聖徳太子の「世間虚仮・唯仏是真」が正しいのです。そして、わたしはここに、よく知られたもう一つの言葉を並べておきたいと思います。それは、

——「厭離穢土・欣求淨土」——

です。世間を穢土、汚れた土地として厭い離れ、ひたすらにお浄土を求めるのです。これは、聖徳太子の「世間虚仮・唯仏是真」とまったく同じ意味ですね。

仏教の本質はここにあるのです。つまり、世間を虚仮、穢土として厭えば厭うほど、嫌えば嫌うほど、仏・お浄土が求められるのです。あるいは裏返しに言うこともできます。わたしたちが仏・お浄土を求めれば求めるほど、世間が忌避されてくるのです。それが仏教の構造だと思います。

*

ところが、現代日本においては、その「世間」が忌避されない。忌避されるところか、もうみんながみんな、この「世間」にしがみついています。しがみついて離れようとしな

いのです。

これじゃあ、仏教がなくなってしまう。だから、わたしたちは、まず世間の価値観を笑い飛ばすことから始めましょう。世間は世間の物差しを持っています。金持ちは幸福で、貧乏人は不幸だ。健康がよくて、病気はよくない。長生きできることが幸いで、短命なのは不幸だ。それが世間の物差しです。その物差しを笑い飛ばすのです。それが仏教者になるための第一歩です。わたしはそう思

います。

考えてみれば、世間の物差しは、

欲望

にもとづいています。金持ちになりたい、健康でありたい、長生きしたい、といった欲望にもとづいた物差しでもって、わたしたちは毎日を生きています。

でもね、世間の物差しはそれほど確かですか。それほど信用できるでしょうか……？

一億円の宝くじに当たるのは、世間の物差しではいいことです。ですが、一千万円の宝くじに当たって、その結果、離婚した夫婦をわたしは知っています。その夫婦は、人情、愛情を金銭に換算して考えるようになってしまったのです。

大学入試に落ちた。世間の物差しでは悪いことです。けれども、一年浪人して大学に入り、そこで素晴らしい恋人にめぐりあった人もいます。逆に現役で合格して、実力不足で大学を中退した者もいれば、相性の悪い同級生にいじめられて、自殺した者もいます。一年遅れていれば、その相性の悪い奴に会わないですんだのです。世間の物差しはあまり信用しないほうがよさそうです。

しかし、かといって、わざわざ世間の物差しの反対をいくのもおかしいことです。わざと大学入試に落ちるように努力する。わざと病気になるように不摂生にする。貧乏になるように振る舞う。会社を誠になるように勤務する。そんな人はいないでしょうが、わたしの発言を故意に歪めて、その上で難癖をつけてこられる人がいます。困ります。だが、おわかりかと存じますが、世間の物差しの反対をいくのは、それはやはり世間の物差しを基準にしているのです。世間では、健康がよくて病気が悪いのですが、それを反対にして、

病気がよくて健康が悪いというのは、ただ世間の物差しを裏返しにしただけで、世間の物差しを使っているわけです。それは、わたしが言っている、世間の物差しを笑い飛ばすことではありません。

世間の物差しを笑い飛ばすには、世間の物差しとはまったく違った物差しを持たねばなりません。しかし、人間には欲望がありますから、欲望にもとづく世間の物差しと違った物差しを持つことは不可能なんです。つまり、わたしたちがどんな物差しを考えたにしても、その物差しは人間の欲望にもとづいていますから、世間の物差しと本質的には同じものです。尺貫法とメートル法の差、あるいは世間の物差しにマイナスをつけたようなものでしかありません。

世間の物差しとは違った物差しは、人間の物差しではありません。人間の欲望にもとづかない物差しです。それは、まさに、

—— ほとけさまの物差し ——

です。ほとけさまの目で見ることのできる物差しなんです。

具体的には、それはどんな物差しでしょうか……？

残念ながら、それは不明です。

いえ、ほとけさまの物差しは、わたしたちにわかるものではありません。わたしたちにわかるものであれば、それはほとけさまの物差しとは言えないのです。

ほとけさまの物差しは、わたしたちの想像を絶するものです。何がいいのか悪いのか、わたしたちにまったくわからない物差しであつてこそ、真にほとけさまの物差しと言えるのです。

そんな物差しであれば、使えないじゃないか？ 使えない物差しなんか、糞の役にも立たない！ と言われそうですね。

ですが、その心配はありません。

わたしたちは、どんなことがあっても、すべてを、

〈ありがたいことだ〉

と受け取らせていただければいいのです。それがほとけさまの物差しで測ったことになります。

たとえば、癌になります。そのとき、

〈いやなことだ〉……と思うのは、世間の物差しです。そして、それは欲望の物差しです。健康でありたい、長生きしたい、といった欲望にもとづいた物差しで測っているのです。

それはそのままでもいいのです。わたしは、癌になったことを〈いいことだ〉〈すばらしいことだ〉と思え、と言っているわけではありません。そんなこと、誰だつて思えないのです。〈いやなことだ〉と思う世間の物差しはそのままにしておきます。

そして、同時に、

〈ありがたいことだ〉……と、ほとけさまの物差しで測るのです。

癌になったのは事実です。癌になって、癌にならないほうがよかったと考えたつて、どうしようもありません。それで、癌が消えるわけがない。

ならば、〈いやだけど、ありがたいことだ〉と思いましようよ。人間の物差しで測るとマイナス価値だけれど、ほとけさまの物差しだと、それが〈ありがたいこと〉なんです。なぜありがたいのか、人間にはわかりません。人間の目は欲望で曇っているからです。ほ

とけさまの目で見れば、きつとそれがいいことなんでしょう。でも、それを「いいこと」と思えと言つても、われわれ凡夫には無理です。ですから、いいこと、悪いことといった価値観とはまったく別次元の、「ありがたいこと」といった受け取り方をするのです。それがほとけさまの物差しです。あるいは、お浄土の物差しです。

そして、わたしは、

「南無阿弥陀仏」

というお念仏は、わたしたちが世間の物差しを捨てて、阿弥陀仏に価値判断をおまかせすることだと思っています。だから、「南無阿弥陀仏」は、「阿弥陀さん、すべての価値判断をおまかせします」ということなんです。いや、どんなことになつても、世間の物差しで測つたいいこと、悪いことのすべてを、

「阿弥陀さん、ありがとうございます」

と受け取らせていただけるのが、「南無阿弥陀仏」のお念仏です。わたしはそう信じています。世間の物差しにこだわることはやめましょうよ。それが念仏者の第一歩ではないでしょうか……。

(まんだらの会会長・宗教評論家・浄土宗檀信徒)

懐しき玩具

撮影

芝崎慶三

多くは木製、T字型になっている現在のけん玉は大正12年、東京浅草の本地玩具職人の手によって誕生したといわれている。先の尖った部分を「けん先」左右の耳のような部分をそれぞれ「大皿、小皿」、底の窪みは「中皿」。くびれたウェストのような所を皿胴、そしてその全体を「けん」と呼び、残ったのは「糸」と「玉」。全部合わせて「けん玉」である。

元来は子供の遊びではあるが、現在では各地に競技会が開かれ、一種のスポーツとして、その奥義を競い合うことも多い。玉を大皿、小皿、中皿と受けてろうそく、とめけん、飛行機、ふりけん、日本一周、世界一周、灯台など技も多彩に開発されている。

寺院紀行

高崎

安國寺

撮影／タカオカ邦彦
文／真山剛

安國寺別院、常照院の本堂と多宝塔（右）



「お墓を背負った寺は嫌いですから、入りたくはありません」

大田秀三青年はそう言い放った。

高崎の名刹安國寺の中島眞孝第十九世元住職が、昭和二十一年九月に大正大学を卒業した大田秀三青年に「安國寺を継いでくれないか」と勧めた時の大田青年の返事である。

その後、同じ勧めを同じ返事で二回断った。しかし、伯母に意見され、安國寺を継ぐことを決心、昭和二十四年安國寺に入る。

以来五十一年の年月が流れ、この平成十二年四月に安國寺別院、常照院の落慶法要を迎えることになった。

安國寺別院は高崎市の街中にある安國寺から車で約二十分、高崎から軽井沢に向かう国道十八号線沿いの若田山にある。ここ若田山には六万坪という市の大霊園、八幡霊園があり、隣接する別院は安國寺の霊園である。その安國寺別院を案内していただきながら大田住職がポツリとこう言った。

「墓を背負った寺は嫌いと言ってから五十余年、最後は皆さんのお墓を大事にさせていただくことになった。やはり落ち着く所に落ち着くものだな」

実はこの取材から数日後、大田住職の落ち着きどこに大きな出来事が起きるのだが、その話は後ほど。

安國寺の創建は南北朝時代の暦応二（一三三九）年、足利氏が全



別院の墓地、本堂、そして右奥が客殿

国（二島六十六カ国）に建立したといわれる安國寺利生塔りしょうとうの一つ、上野国の安國寺として群馬県箕輪に創建された。安國寺利生塔とは足利尊氏、直義兄弟が後醍醐天皇以来の戦没者供養の為に全国の国ごとに一か寺、一塔を建立したもので、安らかな治世と衆生の利をはかり先祖を敬うことを目的としている。奈良時代に国ごとにおかれた官寺である国分寺に似ている。

この上野国の安國寺が現在の高崎の地に移ったのが慶長三（一五九八）年。徳川家康が江戸に入った時の箕輪城主であり、安國寺を菩提寺としていた井伊直政が高崎に入るのにつれて移転した。

もともと高崎は交通の要衝として早くから開けていたが、当時も中山道や三国街道、鎌倉街道などが走る要衝であることから、全国支配体制を築こうとした家康が直政に信濃、越後方面への拠点、碓氷峠防備の拠点として、この地に城を作ることを命じた。それを受けて、直政はかつて和田城のあったこの地を選び築城した。そして和田から高崎へと地名を変えたのである。

その時、高崎と名付けたエピソードが伝わっているので紹介しよう。当初、松崎と名付けようと考えていた直政は、箕輪城下の龍門寺住職に相談した。すると、「松はやがて枯れるもの、栄枯盛衰は致し方ないとしても、殿が家康公の命を受け城を築いたのは頂点に立った大名ゆえ、よって『成功高大』の意味をとり、高崎はいかが



かつての境内にあった石碑も大切に保存してある



別院の多宝塔。中には骨とセラミックで作った骨仏が祀られている

でしょう」と答えた。直政も気に入り高崎と名付けたという。

さて、高崎城の築城とともに直政は箕輪から寺院を移転する。いまでこそ面影はないが城を囲む要所にいくつもの大寺院を配置、戦乱時での武士の集結所、宿泊所にも利用していた。宇都宮から関ヶ原へ向かう徳川秀忠率いる三万余の大軍が川止めとなった時、その軍勢をそれら大寺院が収用したという。直政の城下町作りで寺院の占める役割は大きかったのである。その移転寺院の一つがこの安國寺である。

余談だが、明治四十一年に作られた高崎唱歌には十一もの寺院名が出てくる。もちろん高崎唱歌にも歌われている。

もともと安國寺は高崎城大手門の真正面に立っていた。巻頭カラーに当時の伽藍を写した写真があるが、高崎城から安國寺までの東西に伸びた通りは大手前安國寺通りといって大変な賑わいを見せていた。写真は正時代から末の頃だが、それ以前にこんな手まり歌が作られたという。

「真つ黒くろ助安國寺 光かがやく大信寺」

真つ黒と光かがやくでは随分違うが、これは当時安國寺がゴミの処理をし炭団たどんを作っていたのに対し、大信寺は徳川忠長の墓所であることもあり伽藍がきれいだったからだという。安國寺はそれに加え、現在の職業安定所の役割も果たしていたという。まさに庶民派

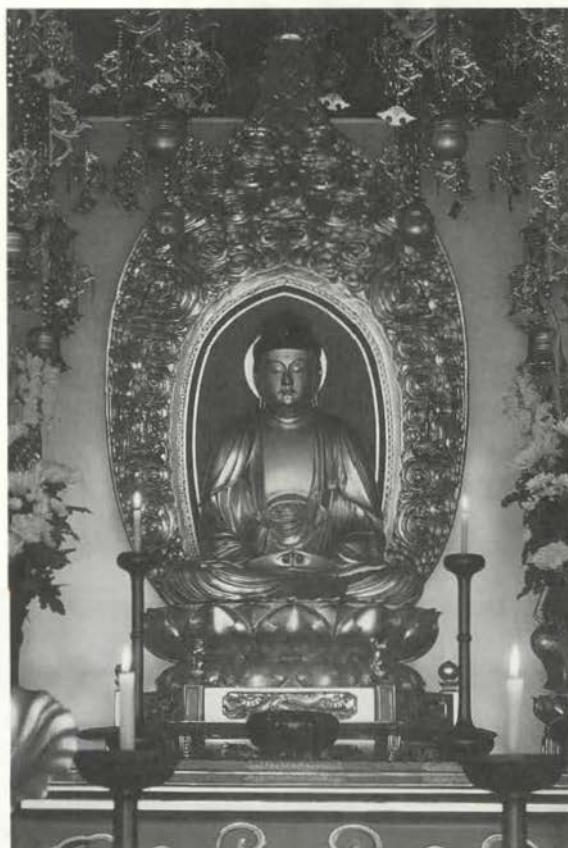


安國寺本堂に向かうスロープにたたずむ豊川稲荷

安國寺本堂欄間に祀られている二十五菩薩像



安國寺本尊の阿弥陀如来座像



を代表する寺院である。

しかし庶民派は名ばかりでなく、伽藍は大きいものの雨漏りがする状態で、明治以降はなかなか大変だったという。そうした中、大田現住職の父秀山上人と昵懇だった中島眞孝第十九世住職、現在は大本山増上寺の執事長となられている野口善雄第二十三世住職のあとを継いで大田秀三青年が安國寺の第二十四世住職として入った。昭和二十四年のことである。

大田住職の御尊父は島根の出身、二十六歳の明治四十年に浄土宗の宗学校を卒業、八年間ハワイで開教活動に励み、大正十年からは朝鮮（現韓国）開教師として昭和十九年に遷化するまでその職務を全うした。大田住職は父が釜山に赴いた翌年の大正十一年十一月、三男として生まれた。現在七十七歳、昨年住職就任五十周年を迎えられているが、その経歴は単に一寺院の住職というものではない。

高崎市市議会議員、浄土宗宗議会議員、浄土宗教学局長、浄土宗宗務総長、大正大学理事長と数々の要職に就かれてこられている。また北朝鮮との関わりも深く、遺跡の発掘には力を注ぎ込まれるなど、しばしば訪朝している。

しかしその肩書きの印象と違い、実際に話を聞かせていただくとうれしく、心優しい住職である。若かりし頃のエピソードもその実直で行動的な人柄そのものである。

慈光保育園の園庭を本堂前の二階から見る



大正大学卒業直後、上野駅で浮浪者と間違えられDDTをかけられた。それを抗議しに行くと、気に入られ翌日から都の主事補として勤務。すぐ書記長となるもストライキが原因で半年でクビ。しかしその経験を活かし、縁のあった甲府善光寺で浮浪者の施設、光風寮を作る。また学生当時、弓道部の主将時代に先輩から言い伝えられてきた、「いざ部が困ったらこの桐の木を売って何とかしろ」という言葉通り桐を切ったところ、先生から大目玉を食ったという。

また父と兄(昭和十八年戦死)の五十回忌法要にあわせ出版した想い出のアルバムの中にこんなエピソードがある。

十五歳の時、棚経を手伝った。夕方に回った病院が混雑していて遠慮してくれとのこと、ムッとなって帰途につくと、看護婦さんが追って来て「小僧さん」とお布施を渡す。忙しくてお経をあげていないので、大田青年は「僕は乞食坊主ではないよ」と言って布施の入った紙包みを放り投げた。翌日父に呼ばれると、応接間に病院の医者夫婦がそろっている。怒られるかと思うと、夫婦揃ってお詫びにこられたとのことだった。そして父も怒らず「念仏の心を忘れないように」と一言。

どれも誠実で豪放磊落な人柄が滲み出る話である。その住職に、安國寺に大きな転機が訪れる。昭和三十九年の都市計画による安國寺の移転である。資料を見ると鳥川に和田橋を架けるのに伴って安

高崎観音。昭和十一年、高崎市の実業家が建立した白衣観音で昭和十六年、高野山から慈眼院が別格本山として移ってきている



観音山から見た高崎市内。高崎は昔から交通の要衝だった



國寺の境内中央に道路を通すのである。昭和三十四年から二期十二年市議会議員を務めていた真つ最中である。

これも高崎市の為、と一千百坪の境内は六百坪になった。そこで伽藍も一新、山号を冠した慈光ビルにした。下駄箱ビルのスタイルで一階は商店街、二階、三階が寺院と住まい。慈光通り商店街に面する五件の店の脇に寺への入口がある。気をつけないと見過ごしてしまいそうなその入口から急勾配の坂を四分の一週した二階正面に本堂がある。また一階の裏手は保育園の園庭になっている。最初は奇異に思えたが実に良く考えられた作りである。

さてこの大きな様変わりからおよそ三十五年、今度は安國寺別院、院号を冠した常照院の落慶である。冒頭で紹介したが常照院は安國寺の墓苑で、二百八十の墓、有縁、無縁の供養墓、骨仏を祀る多宝塔、そしてビルとなった本堂では作れなかった利生塔と、街中の安國寺ではかなわなかった様々な施設がそろっている。

別院の本堂は阿弥陀如来の立像。後ろのステンドグラス越しに西日を受ける設計で、日想観、日が沈むのを見ながら念仏を称えられるように作られている。また半地下のホールは寺宝である刺繍織りの大涅槃図も掛けられる超大型のガラスケース。各種展覧会や映写会に対応できる設備も整っている。また客殿も含め年輩者や車椅子への気配りが本当に隅々まで行き届いている。バリアフリーはもち

少林山遼摩寺本堂。縁起だるま発祥の寺として有名な
黄檗宗の寺院



ろん階段の幅、段差、手すり、壁の角の処理など、どれをとつても利用する立場に立つて考慮した作りである。

まさに大田住職がこれまでの経験と見聞を活かし、そしてこれらのやりたいことをかなえるための完璧な施設に違いない。中でも驚いたのは無縁の供養塔に並べられる墓石がきちつと間隔をおいて、しかも無縁ながら順序までこたわって並べてあることだ。そこにあるのはまさに大田住職の氣遣いと優しさ、仏の心である。

さて、その別院の落慶の直前に大田住職に大きな出来事が起きた。京都御所のすぐ近くにある浄土宗の大本山清浄華院に御法主（住職のこと）として入られることとなったのである。三月三十日に認証式と入山式が行われ、第八十世とられたのである。

「最初はお断りしたが、まあ法縁が熟したということでお受けさせていたのだ」とのことだが、せっかく建てられた安國寺別院から離れての京都暮らしとなる。

「清浄華院はどちらかというと学寮的な大本山、若い人たちと一緒に修行のしなおし」との抱負をおうかがいしたが、喜寿を過ぎてからの修行生活とは大田住職ならではの前向きな抱負である。

しばらくは高崎安國寺と京都清浄華院を往復される身になられるに違いない。両寺院そして浄土宗にとつても大切なお身体、ご無理なされないことを心より願う。

（ルボライター）



國の字を象った安國寺寺紋

西暦2000年。その日本で一番有名な双子といえば、きんさん、ぎんさん。

お姉さんのほうのきんさんが今年とうとうお亡くなりになってしまいましたね。

合掌、聖号十念。

あの笑顔、もう見られないかと思うと、どこか切ない気分になります。

哀悼の意を捧げる記事のなかで、残されたきんさんがひたすら「なみあみだぶつ、なみあみだぶつ」と泣きながら一生懸命

お称え申しあげていたこと、各紙ほんの一行ぐらいでしたが、書かれていました。

西暦2000年の一月一日、朝日新聞の一面にこの千年で十人の日本人を挙げよ、という問いに答えて、作家の杉本苑子さんが第一位に法然上人のお名前を挙げておられました。

少し前のJ R東海の「そうだ京都行こう」シリーズのテレビCMに知恩院が出たとき、巨大組織比叡山を下りた法然上人、いまでいえばフリー宣言。

春宵雑感

という名コピーがありました。

来し方千年、そして未来永劫たつたひとり、日本人を挙げよといわれたら、法然上人を挙げる。私はそういう人の増えることを望んでいます、それにしても「法然」という語、音感、つまり読まれること、語られることの頻度がまだまだたりないという気がしてなりません。

法然上人と浄土宗。

21世紀を迎え、おおいに書かれ語られることを心に祈り誓って、南無阿弥陀仏。

「書きおろし連載小説」

石丸晶子

法然上人を
めぐる人々

式子内親王の生涯(第二部)

第四回 残された人々

十

二月七日の戦で、源平本隊の戦場になったのは生田の森であった。

敵味方あわせて約十萬の武士たちが、入りみだれて刀をかわしたのである。

前日、三草山からはじまった合戦で討死した平家一門の主だった人々は、平忠度、通盛、経正、師盛、知章、業盛、そして敦盛などなど。

これに加えて清盛の五男本三位ほんざんみの中将重衡が、生け捕られて討死した人々の首とともに京に送られてきた。彼は生田の森にやぶれて自害しようとしたところを、武藏の国本庄しんようの住人庄の四郎に、むずとばかりに抱きとめられてしまったのだ。

討死した者、生け捕られた者。

つまり、大敗におわったこの合戦で、平家は一門の半数に近い人々を失ってしまったのである。

齊藤五と六から話をきいた維盛の妻子たちが、嵯峨野のかくれ家で不安にかられ、涙を流していた時刻、洛内では首を獄門にかけおわった源義経たちが、昂奮なおさめやらぬ面持ちで、重衡が押しこめられている宿舎に帰ってきた。

義経としては、重衡のひき廻しを、明日十四日におこなう手はずにしている。

そして見せしめのために重衡が乗る牛車には、土肥の次郎実平を同乗させ、六条通りを東の賀茂の河原まで渡す。

さらにそのあとは、重衡を鎌倉に護送するまでのあいだ、八条南の堀川のみ堂に押しこめて、実平に警護させよう。

義経はそんな算段をしていた。彼も兄の頼朝とおなじく、実直で心やさしいところのある実平を、この合戦以来、たかく評価していたのである。

床を背に、宿舎の板敷にどつかと腰をおろしてみると、大きな仕事をひとつしおえた疲

れが、さすがにどつと、義経にも押しよせてくるようであつた。

だが食欲がない。獄門にかけた首の異臭が、鼻についてはなれないのだ。

義経はかたわらに控える伊勢の三郎に命じて湯漬けをもつてこさせると、軽く一杯、それをかきこみ、やがて縁先に出てしばらくのあいだ、暮れゆく空を眺めていた。

宿舍のまわりにはすでに篝火^{かがび}がたかれ、警護の武士たちのざわめく声がそここからきこえてくる。

そのざわめきのなかで、しかしこのひととき、義経のうちには静かな時間がながれていった。

あたりにたちこめる早春の匂いのせいであろうか、凱戦のよろこびの下から、なぜともしれず、悲しみとも不安ともつかぬ何かがこみあげてくる。

その悲しみとも不安ともつかぬもののなかで、義経は検分した平家一門の血にそまつた

首のことを思い出していた。

——いずれも顔立ちとどのい、阿鼻叫喚^{あびきようかん}のあの戦場で、化粧さえして匂うばかりに美しい首であつた。熊谷次郎が涙ながらに話したところによると、彼が討ちとつた敦盛十六歳などは、鎧直垂^{よろいひだれ}の下に、錦の袋にいった笛さえ腰につけていたという——。

ふと、義経のまぶたに、

「武士、とくに御大将になる方は、猛き心をもつだけではなりません。書をまなび、情けを解し、御信心あつくあらせられねば、人がついて参りますまい」と日ごろ彼をさとしてくれた藤原秀衡の面ざしがかんでくる。

義経は今日この日から三年ほど前、平家打倒の兵をおこした兄頼朝のもとに馳せ参じるために、彼が父と慕う平泉王国のあるじ藤原秀衡のもとを、はなれたのであつた。

「われら板東武者には、とうてい求められぬ優しさよ」

平家一門の姿に秀衡のまなざしが重なるなかで、義経は低くつぶやいた。

「何か仰せられましたか」

うしろに膝をついて控える武蔵坊弁慶が、彼方の空をながめている義経の背を見あげて訊ねた。

「三位殿をお連れいたせ」

うしろをふりむくと、その武威坊に義経は命じた。

十一

義経より二つ上の平重衡二十八歳。

捕らわれるまでは一門のホープであつた青年公達である。

同じ源氏の本曾義仲を討ちほろぼして入京したとき、義経がまず都の公家くげのだれかれからきかされたことは、

「今後は西海に落ちた平家との戦いくさになりましょうが、合戦にあたって平家に人ありと申さば、まず、本三位中将に新中納言（知盛）。

それに能登殿（教経）ぐらいでありましょう。その他の方々かたがたは舞は舞うても戦ができるお方かたとは思えませぬ」ということだった。

またとくに重衡は、公家たちの話によると、数多い清盛の子女のなかでも、とりわけ両親に愛され、武勇の人であるとともに諧謔かいぎやくにとんで話上手。

おもしろおかしく、またときに恐ろしい話などを語ってきかせては、宮中の女たちをおかしがらせたり、怖がらせたりして、非常に人気のある青年であつたという。

「源氏の御大将の前ではありますが」、さらに一の谷から凱戦したきのう、ある公家も義経にいったのである。

「まあ、いわば三位殿は剛にして優。都にいたころはもとより、西海に落ちた以後も、平家にとつては頼もしき一門であつたのではありますまいか。その三位殿が討死もせず、捕らわれたとは――」

縁先をはなれた義経が板敷の間にもどつて待つほどもなく、その重衡が武蔵坊をはじめ武者たちに前後を警護されて、姿をあらわした。

討死した一門の首検分をいくつとなくしてきた義経であつたが、鎧をぬいだ平家と、合戦をはなれてむかいあうのは、はじめてである。

「——たしかに、剛にして優

都落ち以来の疲労と心労に、義経の目に重衡はすっかりやつれてみえた。

だが義経はひと目で、この敵のすぐれた器量かたきを読みとつていた。

心中、打ちひしがれているにちがいないのに、敵の大将の前に引き出されて、勝者にこびたり、卑下したりするところはみじんもない。

（まことに優にして剛。宮中では女房たちから、牡丹の花のようなと騒がれたそうだが、あっぱれの御大将よ）

黙したまま、彼はしばし、じつと重衡に視線をむけた。

張りつめた空気が、あたり一帯を浸していった。

と、やがて義経の、凜りんとしてきびしい声がひびいて、

「本三位中将平重衡殿か」

「いかにも」

きつぱりとした声で、重衡は答えた。

「前大相国平清盛の五男、本三位中将平重衡でござる」

十二

義経はひとと重衡に目をそそいでいたが、二、三度大きく頷くと、

「この度の合戦にはわれら源氏が勝利した。されど勝敗は時の運。武家に生まれた者の定めにござる」

声にきびしさがこもるとはいえ、その心には、思わず、相手をいたわる気持がうごいて

いた。

「いや」

と重衡はそんな義経に答えて、

「九郎殿の一の谷の奇襲、敵ながらあつぱれでござった」

「恐れ入る」

「残念ながら平家に、あの鉄拐ヶ峰てっかいの絶壁を騎馬で駆け下りる者はおりませぬ」

そういうと重衡は唇をかねで黙した。

一瞬、板敷の間に沈黙が落ちた。

とやがて義経がその沈黙を破って、

「板東武者は命知らずの者どもなれば」

「いや。あつぱれでござった」

重衡はそう重ねていうと、

「生田の森で討死すべきところを、思わぬなりゆきにて捕らわれとなり申した」

やつれた重衡の頬に、さっと捕囚を恥じるいろが走った。

「——御身を責められますな。勝敗は武士の世の常。わが父義朝も、平治の乱では敗れ

て首こうべを獄門にさらしましたぞ」

ことばとともに、平治の乱以来、今日にいたるまでの歲月のことが、どつと義経の心におしよせてきた。

その後二十年、源氏が衰退して平家が全盛をほこることになった平治の乱。

このとき乳呑み子であつた義経は、父義朝の顔をしらない。

だが、その彼には、牛若とよばれていた幼いころから、くり返しきかされてきた話があつたのである。

その話とは――。

今若いまわが、乙若おにわか、牛若うしわか、三兄弟の母常盤とこまわは、源

氏の統領源義朝の愛人であつたが、平治の乱で夫が殺され、その血につながる者たちへのきびしい探索がなされているとき、これ以上隠しきることとはできないと悟ってついに意を決し、三人の幼い子らをつれてみずから清盛の前に名のつて出たというのである。

清盛の前にひき出された常盤はその面前に

平伏。わが命とひきかえかに三人の子の助命を懇願した。

ところで、常盤は九条院藤原皇子^{ていし}に仕える元雑仕女^{ぞうしめ}であつたけれども、雑仕女として宮仕えをしていたころ、都第一の美貌をうたわれた女性であつた。

そして清盛は、三人の子の母となつてなお美貌おとろえず、六波羅の平家の庭先に平伏する常盤をみて、たちまち欲情をそそられてしまったのである。

それはたしかに、愛というよりも男の欲情というべきものであつたろう。

というのも、清盛は即刻、常盤のねがいをききいれたばかりか、彼女を自分の愛人にして、二人のあいだには女兒まで生まれているのだが、清盛はその後ほどなく、常盤に倦きてしまい、彼の配下で実直につとめる藤原長成^{ながなり}という公家に、後妻として常盤を押しつけてしまったのだから。

しかし、この常盤が清盛とのあいだに生ん

だ女は、廊の御方とよばれて、平家一門とともに今、西海にただよつてゐる――。

「この二十余年をかえりみれば夢まぼろし。父を獄門にさらされた九郎なれど、御一門のなかには、母を同じうする妹もおります」と義経はいった。

石丸晶子（いしまるあきこ）

東京生まれ、東京大学大学院人文科学研究科修了。現在東京経済大学教授。一九九一年、『式子内親王伝―面影びとは法然―で第一回紫式部文学賞を受賞。著書は他に、『法然の手紙』（人文書院）『お手紙から見る法然さま』（浄土宗出版室）『現代語訳蜻蛉日記』（朝日新聞社）など多数。

天光院住職放談 往生の訳語

私は昨年来、往生ということで話すようにと指示されまして、どういふふうにお話したものか頭を悩めていました。皆さんもご承知のように、この言葉は、困った時にも「往生した」と使い、列車が雪で立ち往生などと、ごくふつうに使われています。

私は、往生とは、かねがね、もっと私どもの今を、お念仏によって、強く安らかに生き、生きぬいて、臨終には、その白道と言われるその道の向こう岸の浄土に往生することと信じています。つまり、ただ往生は死ぬということではなく、今念仏に、往き、行き、やがて、浄土に生きる一連の我が往生生活と考えています。

去年九月には大正大学の浄土宗の學術大會、静岡の普通講習会、さらに、今年は、知恩院の会場で二日にわたって高等講習会で、とうとうお話することになってしまいました。

さて、その題を英訳することになり、こういう問題の時には、いつもご相談する天光院檀家筋の本間長世東京大学教授ご夫婦にお尋ねしました。以上の私の考えを入れての結果、往生は

Going to Pure Land to get a new life,
through the utterance of the name of Amidabuddha.
と訳すことができるとなりました。

しかし、後日念のため、ネイティブの方にこの訳を見てもらったところ、to get a new life, ~以下に少々異論ありとのこと。となると、

Going to Pure Land
としか訳しようがないのでしょうか……。

ちなみに4月6日には各紙誌連載をまとめた拙著『往生』が刊行されます。詳細は本誌次号で紹介していただけるとのことです。

天光院



連載

雑誌『浄土』を支えた人々

列伝

仏教ルネッサンス再び。珠玉の一冊『念佛読本』執筆者たちの足跡

法然上人伝記の研究者

井川定慶先生

金戒光明寺法主

坪井俊映

法然上人の伝記に、鎌倉、南北朝時代に著されたものが十数種ありますが、その中でひろく読まれているものは『勅修御伝』(法然上人行状絵図) 四十八巻であつて、その他のものはあまり読まれていません。

先生は早くより法然上人の伝記の研究に関心をもたれ、これを生涯の研究とされて、『法然上人伝全集』『法然上人絵伝の研究』等、永年の調査・研究の成果を刊行されて、法然

上人の伝記の研究に歴史的実証的研究のあたらしい分野をひらかれました。

先生は明治三十一年十二月、奈良県橿原市瑞花院、井川定雄師の長男として誕生され、畝傍中学校、佛教専門学校に学んで、浄土宗僧侶としての教育を受けられました。卒業のうち、総本山知恩院の寺務に奉仕されるかわら、京都大学文学部国史科に席をおいて、日本史の研究につとめられ、学成りてのち京

都大学図書館司書として近衛家文書の整理研究や各地の史跡調査等の実証的研究につとめられました。

先生の法然上人伝記の研究について注目すべきものは『弘願本』^{くわんげん}の発見であろうと思います。『弘願本』とは法然上人が^{かわや}厠で念仏される絵図と物語が書かれている珍しいもので、末尾に「釈弘願」なる署名のある法然上人の伝記であります。

これはある時、中外日報社に関係をもっておられる江藤澁英師より質流れになつてゐる古い上人の伝記があるといつて披露されたことによります。先生は一見して、これは今まで見たことのない新しい法然上人の伝記であることを知られて、これを学界誌に発表されました。その結果、これと同本の残巻本が高田専修寺、神戸川崎家、東京帝室博物館等にあることがわかり、先生はこれらの残巻本を

たずねて調査研究されて、これらをまとめて完本『法然聖人絵』三巻とされて、上人伝に新しい一本を加えられました。

先生の法然上人の伝記に関する資料の集輯と研究の熱意は大変なもので、新しい史料があることを知れば遠近を問わず足を運んで複写されました。近衛家文書の中より『黒谷上人絵詞』一巻を発見されたのも、その一端と思ひます。

また研究会における法然上人の伝記に関する発表には大変熱の入つた言葉で話され、小柄な先生の姿が大きく見えたともいわれます。先生の永年にわたる調査研究の成果をまとめて発表されたものが、上記の『法然上人伝全集』と『法然上人絵伝の研究』であります。ことに『絵伝の研究』は文学博士の学位請求論文を刊行されたものです。

先生は歴史研究者であるばかりでなく、華

頂女学校、西山専門学校、佛教大学、羽衣学園等においても教鞭をとられて士女教育につとめられ、また総本山知恩院執事、教学部長等の要職につかれて教学の振興と本山の護持に力を至されました。

昭和二十年三月、大阪府綾井専称寺（第二十五世）に招かれて住持し、五重相伝、授戒会等を勤めて檀信徒の教化に努められました。先生の喜寿にあたり、永年の功績をたたえるために、多くの学者によって『日本文化と

浄土教論攷』なる論文集が刊行されています。

晩年、病を得られて専称寺を辞任され、身を千葉県に移して療養につとめられましたが、昭和五十二年五月二十七日、世寿八十歳をもって生涯を閉じられました。

萬蓮社善譽修阿慧戒定慶大和尚と諡号しごうします。

著書として上記のほか、『善導大師絵伝並に解説』『知恩院史』『貞極上人全集』等あり、発表された論文は数十篇あります。

仏教ルネッサンス、再び
珠玉の一冊此処に復刻成る

完全復刻『浄土』昭和十一年十一月號持輯

執筆一覽

念佛讀本

石眞大佐中推
井野野藤村尾
教正法賢辨辨
道順道順康匡

稲小佐江島笹
垣西藤藤野本
眞存春敬慎戒
我祐夫英祥淨

中松梅矢井
野浦原吹川
善眞慶定
英一隆輝慶

(目次登場順)

念仏者必携の書！【特別頒価二千円—送料込み—】

■申し込み・問い合わせ■
法然上人讀仰会

〒105 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内
電話：03-3578-6847/FAX：03-3578-7036

羅怙羅、若し復苾芻にして故心に妄語して慚愧あることな
くまた追悔なからんに、我は是人惡として造らざるなしと
説くなり。(中略)所有罪業は仏前に対して至誠懇慫もて
所作の罪を説くべし。・・・

根本説一切有部毘奈耶 卷二十五(故妄語字處第一)

ラゴラよ、もし出家修行者でありながらわざと嘘をつき、しかもそ
れを恥じず許しも乞わなければ、私、釈迦はそういう人をありとあ
らゆる悪業を重ねる人であると説く。(中略)(もし嘘をついたな
ら)「釈尊の前で罪深き自らの悲しさと己の罪業を偽りなく語り尽
くそう」と自分の心に語りかけなさい。

罪は罪——懺悔する勇氣を

仏教では戒律を破れば罪となる。しかし懺悔をすれば許されその報いが浄化される罪もあるという。その第一に挙げられるのが釈迦さまの一人息子ラゴラにまつわる、「故妄語」、故意に嘘をつくことだ。もちろん浄土宗においては阿弥陀さまの念仏往生の本願はどんなに罪深い身であつてもお救いくださるとする。しかし法然上人はその罪深さ故に「みだりに我が身を軽しめることはかえって本願を疑うことになる（『浄土宗略抄』）」とおっしゃった。罪深い己が本願を仰ぐには懺悔が必要なのだ。

もともと釈迦さまは古代インドの小国を統治していた釈迦族の王子であつた。その時に誕生したのがラゴラである。釈迦は彼が誕生するや否や出家の道を選んだ。そのうち釈迦がわが子と再会を果たしたのは、自ら悟りを開き仏となられてからのこと。ラゴラはすでに九才であつたとされる。

王子不在の釈迦族にあつて、幼いラゴラは一族や王国の命運を一身に背負つたであろう。詳細は省くが、再会した我が子の内面に釈

迦は欲望に囚われた傲慢な人間の萌芽を見てしまった。その将来を案じた釈迦は九才のわが子を出家させたのである。

しかしながらラゴラはまだ子供。無邪気な悪戯いたずらが愛らしくもあつたであろうが、時には釈迦の息子であること、一国の王子であることを鼻にかけたという。「周囲からもつと大事にされたい、父親にもつと甘えていたい」という寂しさが小生意気な言動にあらわれたのかもしれない。しかし釈迦は一向に彼を特別扱いしなかった。ラゴラの心の奥に潜む傲慢さの芽を摘み取ったのである。だが、彼の甘えた振る舞いはついに周囲を困らせる事態に至った。

ラゴラが嘘をついたのだ。人に釈迦の居場所を尋ねられてもわざと見当違いの場所を教え、その人が疲労困憊する様子を眺める。しかも挑戦的な不遜な態度で相手の文句を待ち受ける。どうしてなのかは知る由もない。あるいは自分自身への満ち足りなさ、虚しさが己への嫌悪感となつて自ら喘あえいでいたのであろうか。ともかく度重なる嘘に人々はラゴラを嫌い、軽蔑するようになっていた。

機が熟したと見られたか、ついにお釈迦さまはラゴラを訪ね、嘘は他人を困らせるだけではない、己の心も、そして未来も傷つける^{さへ}と諭した。もし自分を大切にしたいのなら己の心をよくよく省み、懺悔すべきは懺悔する勇気が大切である。その勇気さえあれば悪業の報いを離れた清らかな生活が送れると説いたのである。

嘘をつかないこと、そのこと自体が自分も他人も正しく導く。たとえ嘘をついたとしても懺悔する勇気さえあれば傲慢な心を打ち砕くことができる。自分を大切にしろ。切なる父の願いと感じたのであろうか、長じてラゴラは人知れず修行に励む謙虚な行者となり、「密行第一」の行者と讃えられるようになったと伝えられている。

先ごろの文部省の調査によれば、父親から「嘘をついてはいけない」と教わっていない子供が全体の七〇%、同様に母親からは六〇%であるという。嘘は罪業である。懺悔をしない限りその報いは必ず来る。そして自らを軽しめ自暴自棄に振る舞う。子供たちにそんな未来が訪れぬよう切に願う今日だ。

(浄土宗総合研究所研究員 柚山榮輝)

誌面さらに充実！個性溢れる仏教総合誌

the

法然

Vol.3

2000年春号

生き方情報満載

定価1000円(税込)

書店で注文なさるか
下記へ直接お申し込み下さい。

発行

(財)浄土宗報恩明照会

港区芝公園4-7-4

TEL:03-3436-3353

発売

株西田書店

千代田区神田神保町2-34山本ビル

TEL:03-3261-4509

お寺に泊まろう

■全国の泊まれるお寺■宿坊ガイド■体験記

◆豪華カラーグラビア

法然の道へ ●撮影=樋口英夫

〈誕生寺／比叡山／美しき霊場の風景〉

世紀末の点景 東京1900年

松山 巖 写真=鬼海弘雄

子供と遊ぶ

陶芸家和田万里子の世界

◆インタビュー

俳人 金子兜太

遊び心で自在に人間をうたう

木彫家 関頑亭

仏を通して人間を知る

参議院議員 奥村展三

浄土宗との縁

企業家 前島智征

父の死 父の葬儀

小さなお経

対談 法然という衝撃
阿満利磨×寺内大吉

江戸のピカレスク色悪 (いろあく)
古井戸秀夫

[平家物語新聞]第貳号

コラム特集 二〇世紀の宝石

〒111 東京都台東区元浅草4-2-1
電話(03)3842-1289
振替00180245231

草刈りをしながら、ハコベやムラサキゴケの小さな花をみつけると、つい残しておきたくなる。ペンペン草といえは聞こえは悪いが、ナズナの花は歳時記にも出ていて、春の七草のひとつでもある。雑草とひと口に言っても、美しい花を咲かせるものも多く、姿のいい草、葉草、毒草など知るほどに興味深い。

ドクダミの葉の中にスミレを一輪みつけたのを、湯のみほどの小さな鉢に植え替えた。底に入れるゴロ石がわりに猪口の割れたのを入れ、飾り棚に置く。やがてスミレは青磁の陶片を抱いて凛と咲いた。同じ棚にはシンビジウムが艶やかに咲いていたが、野草には園芸花にない魅力があった。野草や山草を栽培して楽しむ人も多い。花のついた草はなるべく刈らぬと決めた。

ヘビイチゴは黄色い花が終わり、赤い実をつけている。ヒルガオがイモの葉の間に薄桃の花を咲かせ、ドクダミも白い花をつけた。ツユクサの花も待ちたい、と呑気なことを思

っていたら、みるみるうちに荒れ庭が出来上がった。ヒルガオはサトイモの茎にチョッカイを出して蔓を絡ませている。

今、やつと雑草の意味がわかった。

畑のまわりの草を抜き、シダの群生を抜きにかかるとガマ蛙をつかみ、驚いて放り投げた。ガマはそのそ去っていき、薄手のゴム手袋ごしのひんやりと柔かい感触が、いつまでも手に残った。

畑は有機無農薬栽培にすると決めた。

しかし、庭や畑を始めた以上、虫との戦いは宿命だった。どれが害虫で、どんな悪さをするのか、図書館で『植物の病害虫図鑑』を手にとると、もう表紙から毛虫や青虫の写真で恐る恐る写真の虫に手を触れないようにペーじをめくると『時計じかけのオレンジ』の主人公が、無理矢理目を開かされ観たくないフィルムを観せられるシーンを思い出した。ギャーと大声が出せたら、どんなに楽なことか。……見なければよかった。

それからというもの、自然農薬の研究と実験に明け暮れる日々であった。ニンニク、ドクダミ、ヨモギ、トウガラシ、タバコなどの何種類かを、潰したり煮たりして漉し、水などで薄めて散布する。敵はアブラムシ、アオ虫、コナジラミ、カメ虫など。確かに多少の効果は認められるが、この鼻が曲がるほど臭い作戦は、近所迷惑で断念。ハーブが良いと聞いて、アニス、コリアンダー、タイムなどをぐつぐつ煮ていると、虫ではなく、夫が「今日カレー？」と誘き寄せられてきた。ナメクジにビールをのませる作戦は雨で失敗。

ワカメの煮汁を使う作戦もあった。蟻はアブラムシのお尻から出る甘い汁をもらうため、せっせと作物の葉裏にアブラムシを運ぶ。この蟻の嫌いなワカメの煮汁で通り道を遮断するのだ。畑や花壇のまわりにまき、残った汁でコンクリートの上に丸を描き、真中に砂糖を置いてみた。蟻の行列はワカメ汁をすかずかと乗り越え、次々に砂糖を運び出してい



った。今日は調子が悪い。

次は雀を手なづけてアオ虫を食べてもらおう作戦。パン屑を庭に撒き、しばらくするとチュンチュンと十羽ほどの雀が集まってくる。パン屑を食べ終ると、地面をチュンチュン歩いたり、庭木に止まったりして、何かをついばんでいる。しめしめ。そうして、毎日雀が遊びに来るようになった。

ある日のこと、雀が塀や隣家の屋根からパン屑を遠まきにして、降りて来ない。死角で

猫が狙っていたのだ。不思議な時間が流れ、1羽の雀が降り、パン屑をつついた瞬間、猫がパサリと飛びついた。2、3枚羽毛を散らして雀は飛び立ち、それからは、パン屑を撒いても蟻に引かれてゆくばかりだった。カラスが「クワッカッカッ」と笑うように啼いて庭を横切っていた。

一編集者の小さな回想 風貌 河辺岸三

四六判

102頁

1300円＋税

4月15日刊

仕事や運動をとおして交流を得た、今は亡き思い出深い人びと（河野與一、桑原武夫、丸山眞男、北添忠雄、久野収、前田俊彦、秋山清、横田端穂）の断面をエピソードを織りまぜながら抑揚ある筆致で描く。時代を画したこれらの人物像によって、失われつつある時代精神をも甦らせる。

続よむ映画

鈴木陽子

1300円＋税

▶三十八本の映画作品をとおして見えてくる女と男の在りようを、好評を博した前著に続いて論じた本書は、作品批評を突きぬけた、新しい映画批評のジャンルを提起する。

西田書店

千代田区神田神保町2-34山本ビル
Tel 03-3261-4509 Fax 03-3262-4643

浄土宗と浄土真宗の違い

お檀家の親戚の方などの会話の中で、時々聞かれる話題にこのことがあります。

二つの宗派は、同じく阿弥陀如来を本尊とし、『浄土三部経』を所依の經典と仰ぎ、同じ様に他力本願、専修念仏を説く宗派であります。

しかし日常のお経や仏事作法がかなり違っていることから「どこが、どう違うのですか」という、一般の方々の質問を理解する上でも、その違いを少しずつ調べてゆくことにします。

宗祖がそれぞれ法然上人親鸞聖人であることは、先刻ご承知のとおりですが、浄土真宗の特徴として他宗ともしっかりと違う点としまして、①施餓鬼を行わない。②お盆のとき精霊棚を作らない。③卒塔婆供養を行わない。④位牌を作らない。⑤線香を立てることなく、短く折って横に寝かせる。⑥寺の堂舎の特徴として内陣より外陣のほうが際立って広いなどの点があげられます。

またお念仏を唱えるときに、

その1

木魚を使ったりした唱え方はないようですし、念珠もくったりすることはなく、礼拝をするときの持ち物、道具という位置付けのようです。

このように我々と大変近い宗派であるにもかかわらず、少し見ただけでもかなり違いがあることに気づかれます。

同じ念仏宗として、何故彼らがそういうふうになっているのか、その意味はどこにあるのかなど、次回から比較しながら探ってゆきたいと思えます。

世紀を超えて春、日本の螺鈿展

日時 平成12年4月7日(金)～4月11日(火) 10:00～17:00まで
場所 梅窓院 港区南青山2丁目26-38(宮団地下鉄 銀座線 外苑前 南口1a出口すぐ)

展示品：屏風 袈裟
香合 棗 香炉箱
香枕 バッグなど

問合せ

●
青山文化村
TEL 03-3404-8588
螺鈿三宝堂
TEL 077-522-3269
<http://www.radenn.co.jp>

浄土の広場

FORUM

「浄土の広場」では
読者の自由な参加をお待ちしています。
詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、
TVウォッチング、紀行文、その他創作等。
あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。
どしどし編集部にお寄せ下さい。

浄土誌上句会

〔特選〕

塀ごしに伸びし伽羅の木月朧

金谷 友江

●朧

●この伽羅は「きやらぼく」のことだろう。

丈の高いものでないから、塀ごしと言っても少しはみ出す程度に違いない。もう花をつける頃だと思いながら、ふと仰いでおぼろの月を見つけた。ゆつたりとした気分がある。

〔佳作〕

朧夜の茶ごしにお湯の消えにけり

雪我 狂流

トンネルを抜けて湖上の朧かな

瀬川 浩子

橋一つ渡る朧の小豆島

井村 善也

●目刺し

〔特選〕

校庭であぶる目刺しや宿直日

古井戸白々

●こういう情景はまだお目にかかれるのだろうか。私たちには古い記憶をたぐり寄せるように、懐かしむ以外にないことだが、日本の

選者=増田河郎子

〈特選〉

春の水湧く滾々という無音

森中由香里

●自由題

〈佳作〉

どこかに残っていてほしいことの一つのよう
な気がする。

ふるさとの香りただよう目刺し焼き

上野 明達

熱弁の皿にぼつりと目刺しかな

葦名 一光

風に揺る茶色の髪や目刺し干し

中村 陽子

●水の湧くさまを滾々というのは常套的な表現だが、それをわざわざ持つてきて、音もなく湧いている様子を、うまく目の前に浮かび上がらせる。無音に近いものの擬声語を逆手に取っているようなのが面白い。

〈佳作〉

万歩計梅の花見て折り返す

加藤 政男

腹這いに新聞をみる春炬燵

北川 弘子

入り船の港さわめく初鰹

三ツ橋仁平

参加作品

浄土誌上句会の
お知らせ

季題

虹

トマト

自由題

臘
旅婦り疲れいやしぬ臘月
湯に動く臘の月を追っており

鐘撞堂つかぬ鐘あり臘かな
おぼろへと京成電車の音がゆく

星臘捨て忘れたる手紙読む
夕臘石が蛙になる時間

マカロニの穴のしなりし臘の夜
ボッティチェリ硝子越しの臘

臘より出てし老優傾けり
公園を散歩の人の臘影

鼻歌も臘月夜になりにけり
臘月湯あがりに故郷しのぶ

春おぼろ散つて彩る桜かな

中村陽子

山口信子

加藤政男

近藤魚夢

古井戸白々

近藤啞々砂

雪我狂流

井口菜

葦名一光

金谷友江

吉里ひとみ

上野明達

藤井ひろし

目刺

目刺焼くや表に立てる修行僧

目刺焼く煙の路地の時代劇

目刺焼く隣の猫の尾がじれる

目の縁が最も焦げし目刺かな

天気雨目刺の葉をもてあそぶ

目刺生焼け一生アマチュア

三本の目刺の穴の焦げにけり

葉一つ残して焙す目刺かな

頻刺しの葉を抜き取る網の上

燻されて目をこすり食む目刺かな

自由題

あじさいの若葉はころぶ朝な朝な

病まず遙く浄土の旅や雪明り

尽くすとは学ぶことなり春一番

寒明けて羅漢の衆も和みけり

たんぼの絮てのひらに立たせたり

帯解けば帯の白梅くずれけり

落椿汐のさらいし二三輪

野焼する農夫片手に鎌をふる

沖がすみ網目に蟹がかかりいる

大徳寺塔頭廻りて春羹

春愁や冷たき足を重ねおり

葬列を送りふたたび若布刺く

無人駅一人汽車待つ余寒かな

犬小屋の錆びて傾むく春霖雨

金谷友江

周東澄江

近藤啞々砂

雪我狂流

近藤啞々砂

井口菜

近藤魚夢

加藤政男

瀬川浩子

浜口佳春

上野明達

周東澄江

金谷澄江

吉里ひとみ

高橋八千代

中村陽子

増田信子

谷しげ子

加藤政男

瀬川浩子

大村和代

増田信子

浜口佳春

中村よみこ

締切・四月二十日

発表・「浄土」六月号

選者・増田河郎子（「南風」主宰）

応募方法

●いずれの題とも数の制限はありません。

●特選各1名・佳作各3名

葉書に俳句（何句でも可）と、住所・氏名を必ずお書き下

さい。

宛先

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内

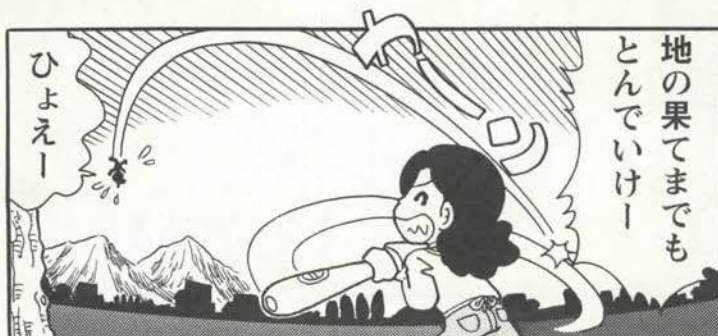
月刊「浄土」誌上句会係

マンガで楽しい仏教用語

漫画・藤井ひろし

金輪際

「もうこんりんざいしません」
 などと使う金輪際は二度と、これ以上とはいう意味の仏教語です。この金輪際、仏教の宇宙論で使われる言葉で風輪 水輪の上にある世界のことです。そしてこの金輪の中に私たちの世界があると考えます。この金輪と水輪の境が金輪際で、いわばこの世界の地の果て、という意味です。



編集後記

世紀末蝶も出てこぬおぼろかな 岱潤

四月は門出の月であり、出会いの月であり、夢ふくらむ月であるはずだ。

しかし三十数年前、サイモンとガーファングルは「四月になれば彼女は」という歌の中で、「四月になればあの子はきつと戻ってきて愛がまた始まる、だけどきつとすぐにまた失望が来る」と歌い上げた。ベトナム戦争当時のアメリカの失望感が込められていた。

今日日本で『陰陽道』が静かなブームになっている。新聞での連載小説から、漫画が生まれ、CDまで発行されて、若者の間で話題になっている。春から夏にかけて『陽』になり、秋から冬にかけて『陰』となることを表すあの韓国

国旗の中心の円形の紋様は余りに有名だが、先のサイモンとガーファングルの歌も何かそんなことを連想させる。

ベトナム戦争に疲れきっていた当時のアメリカの学生と、未来に夢を見いだせず、時代に閉塞しきつた現代の日本の学生、何か共通点があるようだ。

四月、いよいよ介護保険がスタートする。当初偏った福祉サービスを、もっと広く一般化することを目的にしていた理念があつたように聞いていたものが、介護認定の客観性を重視することと家庭での介護を一番とする過程で当初の理念が見えなくなってしまうように思えるのは私だけであろうか。若者にとっても不安な世の中は、当然年寄りにとっても同じだ。(長)

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤

斎藤光道

村田洋一

佐山哲郎

間川彰道

編集顧問

大室了皓

浄土

六十七巻 四月号 頒価六百円

昭和十年五月二十日第二種郵便物認可

印刷 平成十二年三月二十日

発行 平成十二年四月一日

発行人 真野龍海

編集人 宮林昭彦

印刷所 株式会社 シーティーイー

〒一〇五〇〇一一 東京港区芝公園四・七 四明照会館内

発行所 法然上人鑽仰会

電話 〇三(三)五七八六九四七

FAX 〇三(三)五七八七〇三六

振替 〇〇一八〇八八二八七



道路工事中



消火器



歩行者横断禁止



火気厳禁



止まれ



雷害注意



民家近し、静かに



足元注意



路地あり



非常口



防火 種

安心と安全をお届けするのは、
このマークです。



さわらな



われ物注意



安全第一



歩行注意



取り扱い注意

ここにあるマークの意味、わかりますか？暮らしの中には、注意を呼びかけるマークが、ほんと、たくさんあるんですね。生活のいろんな場面で、みんなが注意し合って、ルールを守っている。だからこそ、私たちは毎日を穏やかに、安らかに過ごせます。でも、万が一のときのために、覚えておいて頂きたいマークがあります。それは、あなたに安心と安全をお届けする、このマークです。保険のことは、あなたの街にある住友海上代理店へ。

安心と安全をお届けする



住友海上

〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2 TEL:03-3297-1111(大代表)

『浄土』特選頒布会

ご注文・お問い合わせは法然
上人鑽仰会まで。

【水晶数珠】

電話：03-3759-7074

FAX：03-3759-6323

【布教額・選択集十六章之図】

電話：03-3578-6947

FAX：03-3578-7036

肌身はなさず、
仏さまの御加護を

水晶
数珠

水晶腕念珠

水晶腕念珠 ① 6ミリ珠・M(16センチ)2,200円

② 6ミリ珠・L(18センチ)2,500円

水晶数珠 ③ 6ミリ珠・M(16センチ)2,200円

プレスレッド ④ 6ミリ珠・L(18センチ)2,500円

⑤ 8ミリ珠・M(16センチ)2,700円

⑥ 8ミリ珠・L(18センチ)3,000円

- ・申し込からお届までおよそ3週間です。
- ・送料は一個口あたり300円です。また別途消費税がかかります。
- ・支払いは商品のお届時の代金引き替えます。
- ・商品の品質に関しては万全を期しておりますが、配送時の事故、不良品、誤配送などについては送料当方負担でお取り替えいたします。

水晶数珠プレスレッド



仏壇用宗旨布教額
家庭の仏壇にぴったりの布教額です

大(320×183ミリ)

1,260円(送料別)

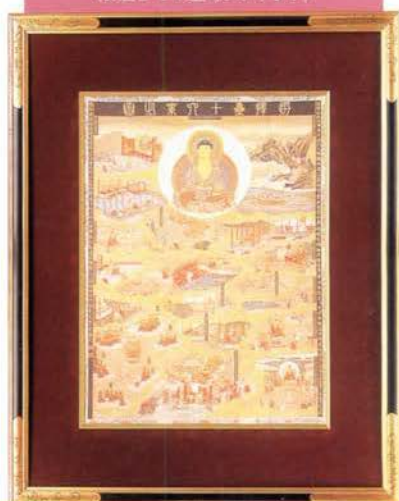
小(273×142ミリ)

480円(送料別)

選択集十六章之図

選択本願念仏集を絵で解きました

豪華額装入り(585×465ミリ)
20,000円(税・送料別)解説書入り
(お届まで4週間かかります)



平成11年6月より頒布価格が変わりました